

令和7年度 小林市立三松小学校 学校関係者評価書

<p>学校経営 ビジョン</p>	<p>みんなで作りたい学校：行きたい、通わせたい、育てたい 三松小学校</p> <p>◎ 子どもも、教職員も、保護者も、地域の方々も、学校とかかわる皆が幸せと言える「笑顔のあふれる学校」となるよう学校経営を推進する。</p> <p>★ 推進のキーワード みんなで（協同）、まえへ（自立）、つながる（連携）、わくわくいっぱいのみまつっこ！（合言葉） きらきら にこにこ ぐんぐん</p>			
<p>項目</p>	<p>本年度の重点目標と 目標達成のための手段</p>	<p>結果の考察・分析及び改善策等(○成果・●課題・☆改善策)</p>	<p>自己評価</p>	<p>関係者評価</p> <p>学校関係者評価のコメント</p>
<p>知育</p>	<p>重点目標：基礎・基本の確 実な定着及び思考力・判 断力・表現力等力の向上 ■手段 1 基礎・基本の定着 2 思考力・判断力・表現 力等の育成 3 授業力の向上 4 学習の土台づくり</p>	<p>○ 本年度の全国学力・学習状況調査（6年）は、3教科とも県・全国の平均正答率を上回った。県平均との差を経年変化（同集団）で見ると4年時の県学習状況調査から大きく伸びていた。国語科は「思考・判断・表現」の観点で「記述式」の問題が国・県の平均正答率を大きく上回り条件に合わせて書く力が伸びた。国語の言語事項や算数の分数の加法、割合など基本的な内容の正答率がやや低かった。</p> <p>○ 本年度の県学習状況調査（4年）の結果は、国語、算数とも県平均超えで、前年度より向上した。学力の個人差が大きく、下位層への支援が必要であることが分かった。</p> <p>○ 対話を軸にした「つないで生かして分かる」授業づくりに取り組んでいる。</p> <p>○ 表現力を高めるために新聞投稿や作品応募に取り組んでいる。</p> <p>○ 校内研修の充実を図り、全職員が「つないで生かして分かる」ようになる指導方法の在り方をテーマとした一人一授業を行って授業力の向上を図っている。</p> <p>○ 校内研修で互いに学び合い、話し合える場を意図的に設定している。「授業力向上に向けた学び合いや話合いの体制ができてきている」と答えた教師の割合96%（12月調査）であった。</p> <p>● 児童質問紙から、平日の学校外での学習時間30分未満の割合が23%（県・国18%台）と多い。家庭学習の習慣が十分でない。家庭学習の意義・習慣化・質の転換等について、保護者にも十分に啓発していく必要がある。</p> <p>○ 児童質問紙から、地域や社会をよくしたいという割合が75.8%（県83.1国81.3%）と低い。市の学びたい度調査では、地域や社会への関心度は、88%と市平均（81%）より高い。</p> <p>● 長時間のゲームや動画視聴により生活の乱れがある。高学年で寝る時刻が遅い割合や、家庭でルールを決めていない割合が国・県の平均より高い。ゲームやスマホ等の適切な使い方や依存防止のための学習や啓発が必要である。</p>	<p>3. 0</p>	<p>3. 5</p> <p>○ 全国および県の学力・学習状況調査において、6年生が全教科で平均を上回る成果を収めたことは、先生方の組織的な指導の賜物です。一人一授業や校内研修を通じた「学び合い」が着実に授業力の向上に繋がりを、子どもたちの理解を深めています。今後は上位層だけでなく、下位層の児童へのきめ細やかな支援を継続し、全体の底上げを図る取り組みに期待しています。</p> <p>○ 平日の学習時間が30分未満の児童が一定数存在し、宿題の提出状況にも差が見られる点は課題です。学力定着には予習・復習が不可欠であり、宿題を「家庭学習の入り口」として定着させる必要があります。保護者が子の理解度を把握する機会にもなるため、各家庭への積極的な啓発を行い、学校と家庭が連携して「学習の土台」を築いていくことが求められます。</p> <p>○ スマホ依存による睡眠不足や生活習慣の乱れが、脳の発達や学力低下に直面している現状に危機感を持ちます。特に生成AIが進歩する現代において、デジタル機器との付き合い方は喫緊の課題です。依存防止に向けた指導とともに、睡眠の大切さを説く「眠育」の推進を強化してください。保護者に対しても、家庭内ルールの確立を粘り強く働きかけていく必要があります。</p> <p>○ 新聞への投稿や作品募集に積極的に取り組み、多くの子どもの作品が評価されている点は、自己肯定感の向上に大きく寄与しています。ICT機器の活用が進む一方で、紙で調べたり書いたりする機会を意図的に設ける姿勢も大切です。デジタルとアナログの良さを融合させた指導を継続してください。また、狭い教室環境の中でも荷物置き場を工夫するなど、学びやすい環境作りへの配慮も評価いたします。</p> <p>○ 「地域や社会をよくしたい」と考える児童の割合が国・県の平均を下回っている点は、今後の改善のポイントです。一方で、市の調査では高い意欲が見られることから、学校でのボランティア活動や地域との協働をさらに充実させることが有効な手立てとなります。校内での学びを社会と結びつけ、自分たちの活動が地域に貢献しているという実感を育むような、開かれた教育活動の展開を期待します。</p>
<p>徳育</p>	<p>重点目標：自他の存在、き まり、礼儀の尊重及び豊 かな心の育成 ■手段 1 基本的な生活習慣の 定着 2 豊かな心の育成 3 いじめや不登校の早 期発見・ 早期対応</p>	<p>● あいさつや返事が身に付いたという教師（88%）右一静歩、生活面の指導が定着したという教師（80%）（12月調査）一時的にできるが常時定着するまで指導の工夫が必要である。時と場に応じた行動、規範意識など、学校・公共のルールを守る指導を徹底する必要がある。</p> <p>○ 環境教育や福祉教育など地域の自然や人材を活かした体験活動を計画的に教育活動に位置付け、道徳教育とも関連付けながら豊かな心の育成を図っている。豊かな心の育成に向けて充実を図ったという教師（92%）（12月調査）である。</p> <p>○ 朝のボランティア活動に取り組んだ割合（83%）（12月実施）と、少しずつボランティアに取り組む児童の姿は増えてきているが、固定化も見られる。</p> <p>○ いじめ防止基本方針の年間指導計画に沿って、組織的、計画的にいじめ防止・早期発見の措置をとっている。毎月の悩みアンケートでは、数件の悩みがあげられている。1月現在、認知件数9件、解消6件</p> <p>○ 昨年度から改善した不登校もあれば、新たな不登校も発生。1月現在、不登校児童1名・不登校傾向児童5名。内1名は夏休み明けから登校、2名は9月から給食登校ができるようになった。不登校児童も12月から民間施設を利用し出席扱いとなった。2名は遅刻傾向。保護者や関係機関との連携を密に行う等、解決に向けた取組を進めてきた。S S W、S C、S S等も活用し、改善が見られてきた児童や、現在対応している児童がいる。</p>	<p>3. 1</p>	<p>3. 7</p> <p>○ 訪問するたびに子どもたちや先生方から元気なあいさつをいただけることは、三松小の素晴らしい伝統です。地域からも「あいさつができる子が増えた」と高く評価されています。一方で、学校側がこれを依然として課題と捉えている点は、さらなる高みを目指す真摯な姿勢の表れでしょう。時と場合に応じた「心こもったあいさつ」が常時定着するよう、引き続きのご指導をお願いします。</p> <p>○ 1年生から6年生までが参加する朝のボランティア活動が、自発的な形で継続されていることを嬉しく思います。2年生が「ボランティア箱」を提案するなど、子どもたちの「自ら進んで取り組む姿」は非常に清々しいものです。活動の固定化という課題に対しても、高学年が参加を呼びかけるなどの工夫が見られ、全校体制での心の教育が着実に実を結んでいると感じます。</p> <p>○ 不登校傾向にある児童に対し、背景や感情を丁寧に読み取り、一人一人のペースを尊重した対応がなされています。給食登校や民間施設の利用など、学ぶ機会を確保するための多様な支援は、子どもと保護者の大きな安心感に繋がっています。不登校を「困りごとのサイン」と捉える先生方の姿勢を維持し、今後も担当が孤立しない組織的な見守り体制を継続してください。</p> <p>○ 花壇の世話を通じて命の尊さを学ぶなど、日常の活動が人権教育に直結している点は重要です。命を大事にすることは、単に存続させるだけでなく、自らの命を成長させ、誰かの役に立つように伸ばしていくことでもあります。また、「先生にも人権がある」という視点も大切であり、互いに尊重し合える関係性を築くことが、いじめの未然防止や落ち着いた学校生活の基盤になると考えます。</p> <p>○ SNS等を含め、見えにくいいじめが増加する中で、ささいな変化も見逃さない早期発見・早期対応の体制が整っていることに感謝します。先生方の情報共有と迅速なご指導が、大きな問題への発展を防いでいます。今後も家庭との連携を密にし、学校が「安全・安心な場所」であり続けられるよう、いじめを許さない雰囲気づくりと、心の安定を図る粘り強い関わりをお願いいたします。</p>